町田市バイオエネルギーセンター運営協議会（第６回）

議事要録

■　日時　２０２４年2月９日（金）９時３０分～１１時３０分

■　場所　町田市バイオエネルギーセンター　管理棟３階会議室

■　出席　委員：高橋会長（もみじ台）、小林副会長（忠生中央）、
福岡委員（忠生自然）、川畑委員（忠生忠霊地区）、
鈴木委員（忠生四丁目）、藤田委員（下小山田）、佐藤委員（桜美林台）、
大谷委員（図師町）、林委員（馬駈）、佐藤委員（常盤町）、
鈴木委員（矢部町）、甲野藤委員（清住平）

専門委員：荒井委員、片谷委員、佐々木委員

■　欠席　３名（代理出席　なし）

■　事務局　：塩澤環境資源部長、徳重循環型施設担当部長

循環型施設管理課　：林課長、黒須担当係長、石川主任、鎌田主任

循環型施設整備課　：田中課長、古屋担当課長、篠塚担当課長、石亀主事

コンサルタント　：株式会社日建設計

■　傍聴者　０名

■　配布資料

次第

１１月４日に発生した町田市バイオエネルギーセンターの火災について　…【資料１】

町田市バイオエネルギーセンターの運転状況について　……【資料２】

防災訓練の実施状況　……【資料３】

熱回収施設等整備事業の進捗状況について　……【資料４】

1　開　　会

〇開会挨拶

塩澤環境資源部長より、開会のあいさつを行った。

3　専門委員の紹介

荒井委員、片谷委員、佐々木委員の紹介を行った。

3　議　　題

(1)　１１月４日の火災について

資料１を用い、事務局より、町田市バイオエネルギーセンター内のバイオガス化施設で発生した火災について報告した。

（以下、主な質疑応答）

甲野藤委員	リチウムイオン電池による火災対策の検討状況・予定はどのようになっていますでしょうか。
事務局（林課長）	2022年7月から充電できる二次電池の行政回収を開始してリチウムイオン電池の混入しないよう対応しており、情報誌「ごみナクナーレ」特別号でも正しい分別へのご協力をお願いしています。 施設に搬入された電池類については、比重差や磁力による選別の他、X線により検知する技術などを検討しています。また、火災が発生した場合に初期消火できるように一酸化炭素の検知器や散水設備を追加設置するなどできることから対応するよう、努力しています。
甲野藤委員	いつ頃までに対応する予定ですか。
事務局 （徳重部長）	空港の手荷物検査に設置されているような微量の X 線によりリチウムイオン電池を検知する装置については開発・試験中ですが、開発メーカーに協力しており、完成に近づいていると聞いています。
甲野藤委員	他の自治体でも同じような状況なのでしょうか。
事務局（林課長）	東京 23 区清掃一部事務組合や多摩地域の自治体でも火災が報告されており、町田市で特に多いということはないと考えています。 先日、総務省行政監察室が火災状況の調査に来られた際、国としても生産者・販売者の責任を含めて提言をとりまとめ、環境省・経済産業省で対処するという考えのようです。

事務局（林課長）　町田市としても啓発、火災対策の増強など出来る限りの対策を進め、製造者・販売者側の対処が進めば火災発生も減少すると考えています。

甲野藤委員　興味深い説明ありがとうございました。また、報告をお願いいたします。

大谷委員　市民の損失でもあるので、情報誌の回覧だけでなく、より一層の啓発活動を行う必要があると思います。

事務局（田中（道）課長）　これまで、「広報まちだ」やごみ分別アプリなどの媒体を用いて啓発活動を行っており、2022年7月から充電式電池の回収を行う際には、初めて、防災無線を使って案内させていただきました。
特別なチラシの各戸配布やごみカレンダーと一緒に投函したりしています。その他、外国人向けのチラシを作成して不動産管理会社に配布をお願いしたり、ごみ収集車に注意喚起のマグネットシート貼るなどの取組みもしており、皆様と意見交換させていただきながら、新たな啓発の方法を検討していきたいと考えています。

大谷委員　月 1 回の 10 地区の会長の集まりで説明いただき、自治会としても班単位で全戸にチラシを配布するなどの取り組みが必要と感じています。

佐藤（早）委員　私も同じ意見で、電池を外せない小型家電を分別したり、電池を絶縁処理したりなど、排出する市民側の責任は大きいと意識することが重要と思います。

川畑委員　高齢者には充電式の小型家電から電池を外すのは難しいので分かりやすく回収する方法を教えていただければ市民も協力できると思います。
また、市民生活にも影響する事項であり理解・協力するため、火災による被害金額、外部に処理を委託している金額、復旧・改修までの時期を提示いただければと思います。

事務局（徳重部長）　被害金額については精査中で、年度内を目処に算出したいと思います。
市長からも、リチウムイオン電池による火災による被害状況を市民の皆様に広報するように指示されていますので、早急に対応していきたいと考えています。
復旧時期も検討中ですが、今年の 11 月頃を目処に修繕し、試運転の後、本格稼働は2025年になると考えています。

事務局（塩澤部長）　2022月7月に電池の行政回収を開始しましたが、小型家電については市民センターなどに設置しているボックスで回収することとしています。回収率を上げるため、身近な場所で回収できる方策を検討を始めており、早く実施できるよう進めていますので、あらためて進捗状況を説明したいと考えています。
火災防止の啓発については、町内会・自治会からの要望を受けて出前講座で説明してきましたが、こちらから積極的に説明の場を設けていただくよう調整していければと思いますので、よろしくお願いいたします。

川畑委員　　収集袋に「リチウムイオン電池を入れないでください」という注意事項を表記することを検討していただければと思います。

事務局（塩澤部長）　　外国人にも分かるようにピクトグラムで、燃やせないごみと燃やせるごみの収集袋に 4 月から表示することにしています。収集袋の在庫がなくなる 2～3 か月後には出回るかと思いますので、よろしくお願いいたします。

福岡委員　　私たち消費者の取組みが重要であり、町田市だけの問題ではないので、国に、分別する必要があることが分かるマーク等を生産者が小型家電に貼るよう働きかけるのも良いと思います。
広報チラシを見ていただけない人もいるので、被害金額・状況を広報して一般の人にも大変な状況であることをお知らせするのが良いと思います。
以前から、ポイ捨てキャンペーンを行っており、ポイ捨ては減少しているので、代わりにこの問題に取り組んでいきたいと思います。
外国人も増えており、燃やせないごみではなく、燃やせるごみに混入していたというのは分別することが全く意識されていないということですので、私たち運営委員も真剣に協力しないといけないと思います。

事務局（徳重部長）　　バイエネ君での火災に関して経済産業省で講演した際、製造者も出席する委員会に参加して、「易解体設計」の導入を要望したのですが感電リスクから実現しませんでした。X 線検知でも鉛板シールの貼付を要望しましたがコスト面から実現しませんでした。
他の自治体でのごみ処理施設でも火災が発生しており、税金で整備した施設が被害を被っていることを訴え、経済産業省所管の公共広告機構で CM 広報することを検討することになっているとお聞きしています。
町田市でも、ポイ捨てキャンペーンのようなアイデアも非常に素晴らしいので検討していきたいと考えていますので、よろしくお願いします。

小林副会長　　各委員から排出者側の協力の提案がありましたが、町内会・自治会だけでなく、老人会や子供会などの地域活動団体も一緒に地域の方に浸透させるよう取組みたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

高橋会長　　いろいろな団体を使ってキャンペーンすることは大事ということですが、混入する可能性はあるので、バイオガス化施設の設備を守らないといけないと思います。
X 線検知器では、生ごみ中の異物を検知・混入させないような対策を講じていただければと思います。
被害額からすると、緊急を要する課題と思いますので、よろしくお願いします。

(2) 運転状況報告

資料２を用い、事務局より、町田市バイオエネルギーセンター運営協議会の所掌事項である排ガスの測定結果など、運転状況について報告した。

(以下、主な質疑応答)

藤田委員　昨年の 7 月頃に地点 A 付近の住宅から騒音の苦情があったと思いますが、その後どのような状況でしょうか。

事務局（黒須担当係長）　A 地点付近の住宅からは特にご連絡はなく、その後、相談はお受けしていません。土曜日の夕方に時々騒音があることはお聞きしていますが、騒音測定も行って報告にお伺いしています。

事務局（古屋担当課長）　騒音・低周波騒音を行いましたが、原因を特定できていない状況です。排気音が原因でないかということで消音器を設置して改善していますが、定期的に騒音測定を行い、対策の効果を検証しています。

藤田委員　引き続き、検証をお願いしたいと思います。

高橋会長　窒素酸化物 NOx 対策としてアンモニア噴霧量を増やす対策もあるとお聞きしていますが、運転状況を説明してください。

事務局（黒須担当係長）　NOx が増加しそうになるとアンモニア噴霧量を増やす運転をしており、アンモニア噴霧量は一定ではなく、自動で NOx に追随するように運転しています。

(3) 防災訓練の実施状況

資料３を用い、事務局より、防災訓練の実施状況について報告した。

(以下、主な質疑応答)

高橋会長　能登半島地震でも震度 7 が観測されていますが、消火栓など設備の耐震性はどのようになっているのでしょうか。

事務局（田中（功）課長）　災害に強い施設として計画しており、震度 6 強でも建物機能を継続できる耐震性を有しています。震度 7 ではありませんが、多少、余裕を見込んでいますので、消火栓を含め、かなり丈夫な建物・設備になっていると考えています。

川畑委員　6 月 28 日に防災訓練を行い、11 月 4 日に火災が発生していますが、訓練がどのように活かされたのか、また、その際の課題を踏まえて 12 月の訓練ではどのように反映したのか、訓練を充実していくため、説明いただければと思います。

事務局（林課長）　火災警報が発報したら現場確認に合わせて消防署に迅速に通報するという対応については 11 月の火災でも訓練が活かされていると考えています。
今までは不燃・粗大ごみ処理施設で火災が発生していたため、不燃・粗大ごみ処理施設での火災を想定して訓練する傾向がありましたが、12 月の訓練では 11 月の可燃ごみ側の火災を踏まえて、可燃ごみピットで火災を想定した放水訓練も実施して対応できるよう習熟するようにしています。

高橋会長　震度 6 強の条件で耐震性の設計しているとのことですが、どの程度の安全率を見込んでいるのでしょうか。

事務局（徳重部長）　建物については、安全率 1.25 倍で設計しています。

4　町田市からのお知らせ・町田市事務局からの連絡事項

（1）熱回収施設等整備事業の進捗状況について

資料４を用い、事務局より、工事の進捗状況と今後の工事内容、土壌汚染対策工事の完了について説明した。

（以下、主な質疑応答）

高橋会長　ふっ素及びその化合物の分析結果は示されていますが、鉛及びその化合物の分析は行っていないのでしょうか。

事務局（波戸場係長）　今回は、ふっ素及び化合物の検出箇所の土壌を掘削・搬出するということで法令・条例に基づき観測井戸を設置して地下水を分析していますが、鉛及び化合物の検出箇所の土壌は掘削・搬出しないので分析が求められておらず行っていません。

高橋会長　今後、どのような工事・土地利用を予定していますか。また、橙色点線の範囲の面積は何 m^2 程度でしょうか。

事務局（波戸場係長）　ストックのヤード棟、収集車・庁用車の駐車場、緑の広場、ビオトープを整備する予定です。

事務局（篠塚担当課長）　1 区画は 10m 四方で 100m^2 ですので、橙色点線の範囲の面積は約 7,200m^2 になります。

（2）「まちだECO（いーこ） to（と）フェスタ 2024」の開催について

事務局より、3 月 3 に開催する「まちだECO（いーこ） to（と）フェスタ 2024」について説明した。

（以下、主な質疑応答）

福岡委員　　5,000 人の来場者を見込んでいるのであれば、事故時の大きな写真を掲示するなど、リチウムイオン電池の分別収集の啓発の機会として利用していただければと思います。

事務局（田中（道）課長）　　ごみ収集課では、ごみ収集車に乗って模擬集積所で模型のごみを回収するという「リアル収集体験」を行いますので、分別の徹底・火災防止についてアピールしていきたいと考えています。

高橋会長　　町内会・自治会でもデジタル化の取組みを進めていますが、掲示板の貼る枚数程度は紙媒体で提供していただければと思います。

事務局（岸担当課長）　　掲示板の数に対応したチラシを各まちづくり協議会の皆様にお送りさせていただきますので、町内会・自治会の掲示板に貼っていただいて周知をお願いしたいと思います。

(3) その他

第 5 回運営協議会の議事録は、委員の確認が得られたので、近日中にホームページに掲載する予定であることを報告した。

次回の運営協議会の開催予定として、8 月の頃であることを伝えた。

4　閉　　会

徳重担当部長より、閉会のあいさつを行った。